

選手各位

2020年4月15日  
一般社団法人 全日本少年硬式野球連盟  
会長 山田 久志

## 耐えれば明るい明日が待っている

各チーム、選手は練習もできず、モヤモヤした気持ちが心に充満していることでしょう。春季大会、そして3月、4月、5月のローカル大会すべてが中止と聞きました。選手にとっては目標が定まらず、大好きな野球ができないのは本当につらいことです。

憎きコロナウイルス！

毎日新型コロナウイルスの感染症による肺炎で多くの方々が亡くなっておられます。政府から緊急事態宣言が発令され、全国民が戦っています。

外に出て白球を追いたいでしょ。いまそれは厳禁です。君たちが感染しておじいちゃん、おばあちゃん、ご両親、兄弟にうつしたら…絶対やめてください。

私の同僚だった梨田選手、片岡選手が感染、命をかけて戦っています。危機は私たちの間近まで迫っているのです。

心に残っている言葉があります。今年の大相撲3月場所千秋楽、八角理事長（元横綱北勝海）の挨拶です。

「この三月場所を開催するにあたって一つの信念がありました。元来、相撲は世の中の平安を祈願するために行われて参りました。力士の体は健康な体の象徴とされ、四股を踏み相撲を取る。その所作はおよそ1500年まえから先人によって脈々と受け継がれて参りました。

今場所は過酷な状況の中、立派に土俵を務めあげてくれました全力士、そして全協会員を誇りに思います。

我々はこれからも伝統文化を継承し100年先も愛される国技、大相撲を目指してまいります」

力をもらいました。開催について賛否があったことは確かですが…。

君たちにも、全員で白球を追える日が近づいています。その日が来るまで、感染防止のため連盟からの通達に従ってください。

ボールの縫い目はいくつあるか知っていますか。108です。あの除夜の鐘の数と同じです。煩惱がすすめたら、ボールの赤い糸の縫い目を一つひとつ数えてください。

すべての悩みを白球に込めて！必ずボールが悩み、ストレスを解決してくれます。

「選手権大会」で選手の明るい顔を見るのを楽しみにしています。

指導者は選手に寄り添い、心のケアをしっかりしてあげてください。